

平成30年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. 5）

平成30年8月16日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月9～13日に行った巡回調査定点における穂揃い期～乳熟期の本田すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は86.4%（平成27年：68.7%）で、平成27年に比べて高かった。

穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では直ちに防除を行うとともに、周辺に発生源（イネ科雑草）の多いほ場では防除後も発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は直ちに防除を行う。

2 発生状況

（1）8月13日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が認められる。発生ほ場率は86.4%（平成27年：68.7%）、要防除水準を超えているほ場率は48.9%（平成27年：37.1%）と平成27年より高く、平均すくい取り虫数は、11.2頭（捕虫網25往復50回振り虫数、平成27年：7.4頭）と平成27年より多い。

（2）カメムシ類の発生状況は、ほ場間差および地域間差が大きく、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場、水田周辺に出穂したイネ科雑草が多いほ場および地域での発生が多い。

3 防除上注意すべき事項

（1）8月上旬に出穂期を迎えたほ場（ひとめぼれ、コシヒカリなど）で、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では直ちに防除を行う。

また、防除を行ったほ場においても、周辺に発生源（イネ科雑草）の多い場合は、防除後も発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は防除を行う。

（2）これから穂揃い期を迎えるほ場（中生品種など）では、穂揃い期～乳熟初期の基本防除を徹底する。その後も発生が多い場合には、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。

また、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、先ず、穂揃い期～乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。

（3）水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので直ちに取り除く。